



令和 4 年度業務実績に関する報告書【概要版】

令和4年度 年度計画の実施状況

業務の全体的な実施状況は、76項目のうち、年度計画を上回って実施している（A評価）が1項目（1.3%）、年度計画を計画どおりに実施している（B評価）が75項目（98.7%）であった。

👉 76項目の全てがA評価又はB評価となっており、年度計画を十分に実施していると認められる。

No	区分	令和4年度				令和3年度				令和2年度				令和元年度			
		A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D
1	大学の教育研究等の質の向上に関する計画	1	39	0	0	2	37	2	0	1	37	4	0	5	34	1	0
2	業務運営の改善及び効率化に関する計画	0	5	0	0	0	6	0	0	0	6	0	0	1	4	1	0
3	財務内容の改善に関する計画	0	9	0	0	0	8	0	0	0	8	0	0	0	7	0	0
4	自己点検・評価及び情報公開に関する計画	0	4	0	0	0	5	0	0	0	5	0	0	0	5	0	0
5	その他業務運営に関する重要な目標	0	18	0	0	2	21	0	0	2	24	0	0	2	22	2	0
合計		1	75	0	0	4	77	2	0	3	80	4	0	8	72	4	0
比率		1.3%	98.7%	0.0%	0.0%	4.8%	92.8%	2.4%	0.0%	3.4%	92.0%	4.6%	0.0%	9.5%	85.7%	4.8%	0.0%

A、B評価：100%

A、B評価：97.6%

A、B評価：95.4%

A、B評価：95.2%

年々増加傾向



主な取組事業

年度計画No.10 分野横断型シンポジウムの開催

年度計画No.18 論文投稿数 数値目標 (1)学術団体論文誌等への論文の掲載数

年度計画No.23 研究センターの設置

年度計画No.38 教員人事評価制度

年度計画No.51 ふるさと納税による大学支援

年度計画No.69 学生の安全確保のための施設整備

年度計画No.72 遠隔授業配信用教室の整備

BEFORE

●博士前期課程の研究発表は、パワーポイントにより講義室で学生が1人ずつ発表を行っていた（持ち時間@20分）。

《課題》

◆全ての発表に3日間程度要していたため、他専攻の学生・教員による聴講者が少なく、分野横断型という趣旨に課題を抱えていた。

【参考】発表対象者 R1:40人 R2:42人



【一般公開に向けた周知】

- ・商工会議所に協力いただき、会議所議員115人にDM、会議所メルマガにより周知
- ・R1～R3就職実績企業（491社）にDM

AFTER

《新たな取組①》

○博士前期課程の研究発表を新たにポスターセッションという発表形式により実施

○ぐんま地域イノベーションゼミの成果発表などとともに分野間での交流を促進

《実施成果》

一般公開による43社73人の市内企業等の参加、92人の学部生の聴講があり、本学の研究内容の対外的なPR及び大学院進学の動機付けにもつながった。



《新たな取組②》

●ポスターセッション来場者による優秀ポスター投票を実施

◆優秀ポスター投票のお願い

本日ご覧いただく大学院前期課程2年生のポスター発表(M1～M60)のうち、最も良かったと思うものにご投票ください。

投票はQRコードから簡単に行えますのでご協力をお願いいたします。



《実施成果》

●優秀者に特別賞を授与することで、学生の研究意欲の更なる向上に努めた。

《優秀発表賞5人》

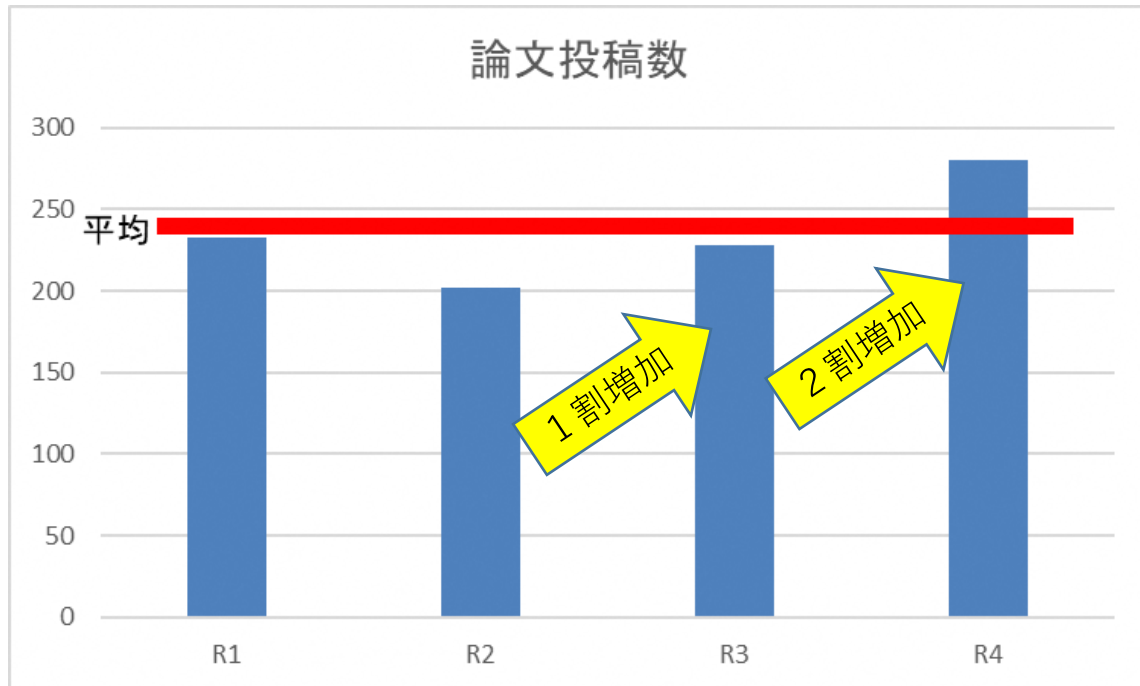
- 建設工学専攻□渡辺□純平
～土粒子間に働くサクシオン応力に着目した土の不飽和強度の推定～
- 建築学専攻□□宗形□雅彦
～超能力環境トマソン□ベッドタウンに依り所をつくるエスパーアーバニズムの提案～
- 生命情報学専攻□小澤□侑平
～液滴関連タンパク質における天然変性領域の特徴～
- システム生体工学専攻□岩井□隼人
～触覚センサを用いた義手制御のための実時間動作判別に関する研究～
- 生物学専攻□太田□晴佳
～非アルコール性脂肪性肝疾患を予防する機能性成分に関する研究～

《特別賞1人》

- 生物学専攻□石流□愛梨
～炎症メディエーターSTAT5-安定評価系の構築および抗炎症食品成分の探索・解析～



学位記授与式での掲示

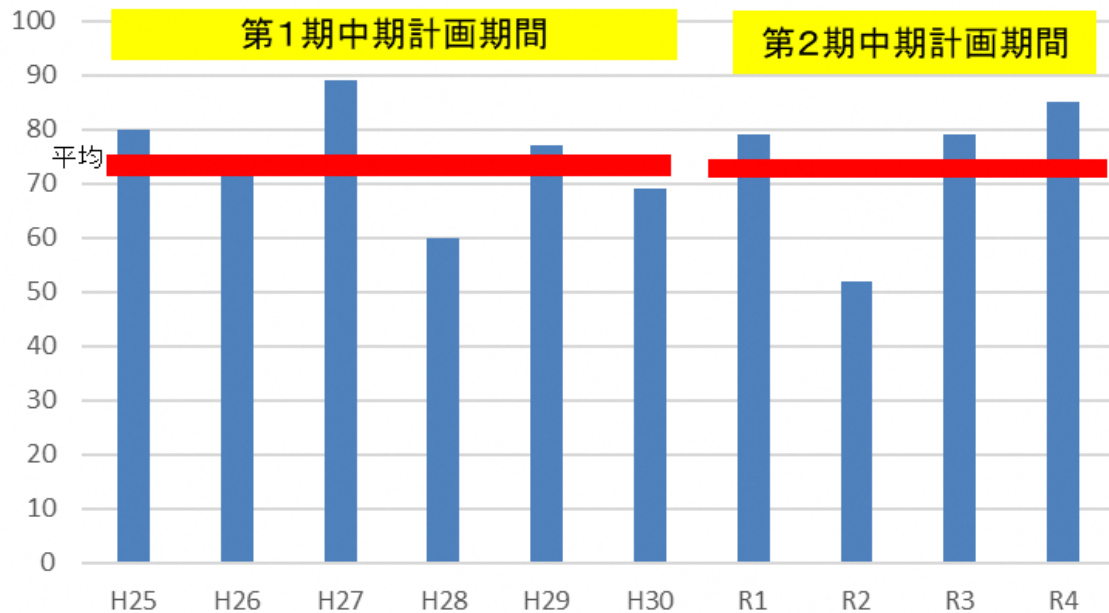


令和3年度に就任した福田理事長及び今村学長は、学術研究を重要視しており、研究に積極的に取り組むよう常に教員に対して意識改革に努めたことから、論文掲載に直結する論文投稿数について、令和3年度は令和2年度より約1割増加し、令和4年度は令和3年度より約2割増加した。

	R1	R2	R3	R4
論文投稿数	233	202	228	280

数値目標 (1)学術団体論文誌等への論文の掲載数

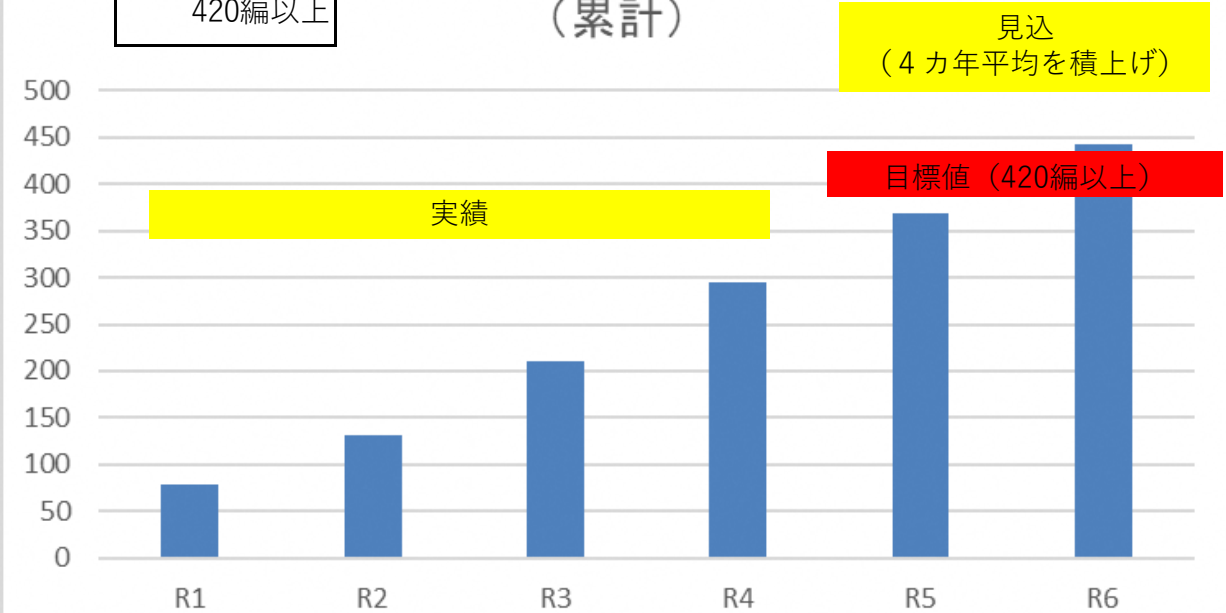
論文掲載数(単年度推移)



	第1期中期計画期間						第2期中期計画期間			
	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
論文掲載数	80	72	89	60	77	69	79	52	79	85
平均	75						74			

平均掲載数は、第1期・第2期中期計画期間ともに同様であるが、**令和3年度及び令和4年度は、増加傾向**

論文掲載数
(累計)



令和5年度・令和6年度について、令和4年度までの4か年の平均掲載数74編を積み上げると、**最終年度には443編となり、目標値の420編以上を達成する見込みである。**

ソーシャルデザイン研究センター



バイオサイエンス研究センター

共通理念

民間企業等との共同研究を通して、**自然と人との共生及び持続可能な循環型社会の構築**に貢献

共通目標

①地域の中小企業との共同研究の実績を活かし、企業が抱える様々な課題に本学が共に挑戦し、**モノやコトに関するプロトタイプの生産拠点**となることを目指します。さらに、**企業の国際的競争力を強化**することを支援します。

②公立大学の特徴である教員と学生の距離が近いことや学生が地域課題に取り組む機会が多いことを活かし、研究センターが取り組む様々な課題に、学部生、大学院生を積極的に関与させ、**工学技術者、研究者としての実践力を涵養**していきます。

③将来的には、**地域のオープンイノベーションの拠点**となることを目指していきます。



前橋工科大学 25周年事業 新研究センター設置記念シンポジウム

前橋工科大学は、これまでの共同研究等の実績を土台に、産学連携をこれまで以上に推進し、自然と人の共生及び持続可能な循環型社会の構築を目指すため、新たに「ソーシャルデザイン研究センター」と「バイオサイエンス研究センター」の二つの研究センターを設置しました。今回、二つの研究センターに関連のある研究領域の講師をお招きして特別記念講演会を開催します。

参加費無料
事前申込制

地域とともに 未来を切り開く

持続可能な社会を目指す新たな挑戦

2023年
5月13日(土)
13:30~16:00
会場：前橋工科大学1号館

申込期限
5月10日(水) 17:00
参加申込みURLより
必要事項をご入力ください



基調講演・1

芝浦工業大学名誉教授 三井所 清典

東京大学建築学科卒業後、1970年にアルセッド建築研究所を設立し主宰として、建築及び地域に関する調査・研究開発・設計を行う。地域の設計者・工務店や住民参加の住まいづくり・まちづくりを、富山・山口・福島・福井・新潟・宮城・奈良・熊本・鹿児島・岡山など日本各地で行ってきた。2012年より2020年まで日本建築士会連合会会長を四期継続し、同年より名誉会長に就任、現在に至る。



基調講演・2

東京大学薬学部教授 池谷 裕二

1998年に東京大学にて薬学博士号を取得。2002~2005年にコロンビア大学に留学をはさみ、2014年より現職(東京大学薬学部教授)。専門分野は神経生理学で、脳の健康について探究している。また、2018年よりERATO脳AI融合プロジェクトの代表を務め、AIチップの脳移植によって新たな知能の開拓を目指している。文部科学大臣表彰 若手科学者賞(2008年)、日本学術振興会賞(2013年)、日本学士院学術奨励賞(2013年)などを受賞。



参加者：156人



基調講演1 芝浦工業大学名誉教授 三井所 清典 氏

『地域の力を活かす建築とまちづくり』



基調講演2 東京大学薬学部教授 池谷 裕二 氏

『人工知能を迎える未来を考える』



年度計画No.23 研究センターの設置 評価：B ③公募型共同研究の募集



前橋工科大学 公募型共同研究のご案内

令和4年度から従来の6学科を2学群に再編したことを契機として、二つの学群が目指す学問領域を象徴する二つの研究センター（ソーシャルデザイン研究センター及びバイオサイエンス研究センター）を設置しました。この二つの研究センターでは、本学の持つ専門性の高い工学の知識を、地域社会はもとより、国の内外の発展に役立てていくことを目指すため、産学連携を通じた共同研究を公募します。

二つの研究センターについて

✕ ソーシャルデザイン研究センター ✕

「土木・環境分野」、「建築都市分野」及び「工学デザイン分野」の多様な研究に取り組み、様々な社会課題を創造的に解決する等、**レジリエントで持続可能な未来の社会づくりに貢献**

✕ バイオサイエンス研究センター ✕

「情報科学分野」と「生命科学分野」を融合させて多様な課題に取り組み、**人々の健康で快適な暮らしを優しく支えるためのバイオサイエンス研究を進め、イノベーションの創出を目指します。**

募集概要

上記、研究センターの趣旨を実現するための研究を公募します。

○応募要件

- ・応募者は、法人格を有すること(所在地は、問いません。)
- ・共同研究に係る研究費を本学の負担に合わせて、本学と同額以上の自己負担をすることができること。
- ・原則として、複数の本学の教員が参加可能な研究のテーマであること。

※本学の教員及び対応可能研究分野が不明な場合は、マッチングを行いますので、アイデアベースで構いませんので、提案書(HP掲載)をご提出ください。

○研究費

- ・研究テーマごとに本学が負担する研究費は、予算の範囲内において、1研究テーマにつき**100万円を上限**とします。

○研究期間

- ・研究開始日(令和5年9月1日予定)から令和7年3月31日までとします。
- ※研究期間の終了後、継続を希望する場合は、再度応募し、審査を受ける必要があります。

○申請締切

- ・**令和5年7月31日まで**
- ※提案書は、令和5年6月30日まで)

申請方法等の詳細については、ホームページをご確認ください。 ⇒

【前橋工科大学の研究に関するお問い合わせ】

〒371-0816 群馬県前橋市上佐島町460番地1

前橋工科大学 学務課 地域貢献・研究支援係

電話：027-265-7361 E-Mail:chiiki@maebashi-it.ac.jp



(学長: 今村一之)

前橋工科大学の良みに
ぜひご協力ください



公立大学法人
前橋工科大学
Machashi Institute of Technology

謹啓

貴社 株式会社 隆盛 のことお慶び申し上げます。

前橋工科大学は令和4年に建築都市環境工学群と情報生命工学群へと学科再編を行いました。それぞれの学群が協力し飛躍的に研究・教育活動と展開できるように令和5年4月1日よりソーシャルデザイン研究センター、バイオサイエンス研究センターを設置致しました。これにより「共同研究のうち中小企業との連携の割合を日本一」という本学の特徴をより強化するため、二度、両センターの研究プロジェクトを公募することと致しました。是非、貴社からの課題提案と検討いただけますようお願い申し上げます。

貴社と本学との共同研究により社会に貢献できる新たな成果を生み出すことであれば幸いです。

以上、何卒よろしくお願い申し上げます。

謹白

令和5年4月

前橋工科大学 学長
今村 一之

課題

- 評価者、被評価者の負担が大きい
- 資質やモチベーション向上に十分つながっていない

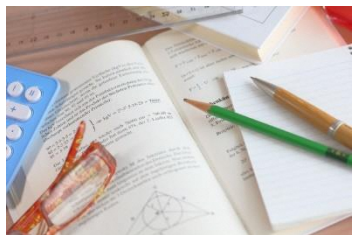
対応

- ➡ 目標設定・評価シートをより簡潔にする
- ➡ 「教育」「研究」「社会貢献」などの個別の分野に重点的に取り組むスペシャリストも適切に評価する仕組み

	「見直し前」
①	一つの評価軸による評価 大学という多様性が求められる組織において、研究が中心の教員もいれば、教育が中心の教員もいるなど、それぞれの主軸が異なるものの、一つの評価軸で点数化することにより評価をしていた。
②	自己評価に重点を置いた制度設計 「教員が自らについて評価を行う自己評価（100点満点）」と「職務行動や業務の達成状況を学科長等が評価する自己評価以外の評価（20点）」の2つをそれぞれ数値化し、合算（120点満点）して評価していた。
③	評価者、被評価者の負担が大きい制度 目標設定や自己評価の際に、大分類の重み付けや小分類の選択、採点の選択を行った後に目標や計画、実施内容、自己評価を記入するなど、シート作成に係る被評価者の負担が大きかった。また、被評価者は自己評価における項目ごとの証拠書類を作成し、評価者はそれを確認するなどの負担もあった。
④	
⑤	

	「見直し後」
	多様性の評価 それぞれの教員の主軸が違うことを考慮し、「教育」、「研究」、「社会貢献」などの個別の分野に重点的に取り組むスペシャリストとして適切に評価する。
	客観的評価による制度設計 「被評価者が目標設定をしたものに対して評価者がその達成度を評価する業績評価（A～E）」と「大学運営に対する主たる貢献実績を評価者が評価する貢献評価（A～E）」の2つを合わせて、総合的に評価（A～E）する。
	評価者、被評価者の負担を軽減した制度 目標設定では、取り組む分野を選択し、年度目標を記入するのみとし、自己評価では、目標の達成状況や自己評価の理由を記入し、当該達成状況に係る証拠書類を用意することのみとすることで、シート作成に係る被評価者の負担を軽減する。また、評価者についても、A～Eの評価とコメントを記入するのみとすることで、評価に係る負担を軽減する。
	客観指標の設定と活用 分野ごとの指標（「新規外部資金獲得数」、「担当授業コマ数」、「論文数・展示会数」）を設定し、共有することで、全学における自らの状況を把握するとともに、目標設定などに活用する。
	中期計画等との連動 大学運営に対する貢献評価に当たっては、中期計画、年度計画に掲げる施策との連動を意識し、具体的にどの計画の達成に向けて貢献したかを評価する。

教育賞 伊藤教授



学科再編後の教育の特徴として「少人数制」を掲げた。基礎教育の中でも特に数学科目は工学を学ぶ基盤教育として極めて重要であり、全学の必修科目となっている。伊藤教授は、数学教員のリーダーとしてクラス編成を行い、これまで以上に丁寧な講義を実現した。また、講義、試験内容の統一に果敢に挑戦し、成績評価の公平性の課題という難問を解決した。その貢献に対して「教育賞」を授与した。

研究賞 尾形教授



工学は、研究成果の社会実装に大きな特徴がある。尾形教授は、酵母の接合実験によりアルコール分解に関する酵素群に新たな形質を発現させることに成功した。通常の研究はその成果を論文として発表することで完了するが、尾形教授は、さらに成果を応用して、これまでのビール酵母では不可能であった糖類の分解を可能とする新たなビール酵母の開発まで進展させ、実際に新たなビール（春星）を生み出した。以上の功績を評価して、「研究賞」を授与した。

地域貢献賞 堤准教授



LIFORTプロジェクトのリーダーとして、広瀬団地の再生に挑戦し、新たなまちづくりの基本的な方法論を確立するとともに、地域の活性化に繋げることに成功している。また、前橋の景観財産である広瀬川周辺の整備に関して、学内の教員との共同プロジェクトとしてこれを推進し、プロジェクトは現在も継続進行中であるが、これまでも地域の課題解決に大きな貢献をしてきたことを評価して「地域貢献賞」を授与した。

施策①ふるさと納税（R1.11～）

《前橋工科大学 未来へつなごうプロジェクト》
自治体と連携したふるさと納税による大学支援は、関東の公立大学では初の取組
⇒学生支援など大学にとって必要なテーマに対して活用

【寄附額】

R4:3,759千円
R3:3,865千円
R2:4,481千円
R1:2,221千円
※平均:3,581千円

返礼品あり

軽食等自動販売機
の設置



電子書籍の
購入（予定）



施策②クラウドファンディング型ふるさと納税（R4.11～R5.1）

《みんなで創る新校舎～知の宝石箱プロジェクト～》
図書館・2号館（研究棟）の建替えに当たり、新校舎をより学生に愛され、一般のかたや地域の企業の皆様にも広くご活用いただくため、クラウドファンディングを実施

【目標額 1 億円 寄附額1,296千円】

返礼品なし

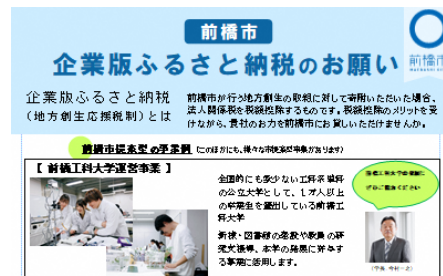


施策③企業版ふるさと納税

《地方創生応援税制》

地域の活性化を図るために教員の研究支援等に活用

返礼品なし



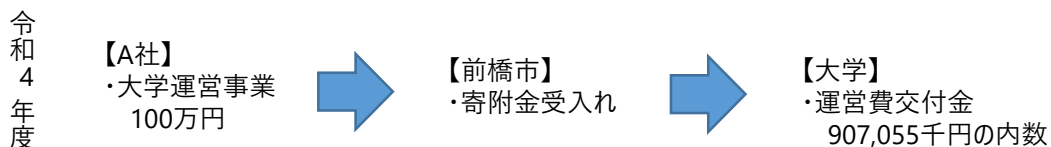
1 企業版ふるさと納税を活用するメリット

単なる法人に対する寄附の場合、企業が受けられる税額控除は最大約 3 割であるが、企業版ふるさと納税を活用することで、控除幅が最大約 9 割になるため、企業負担を抑えつつ、より多くの寄附を獲得することが期待できる。

2 概要

- ・令和 5 年度から、研究(教員)を指定して行われた企業版ふるさと納税については、前橋市と相談し、研究費に充当できるよう、仕組みを整えた。
- ・本制度を各教員に周知するとともに、これまで寄附いただいた企業に対する呼びかけを教員に依頼する。
- ・公募型共同研究の提案書を締め切った後の 7 月頃に、これまでの共同研究先等に対して、学長直筆メッセージの案内文を送付する。

BEFORE



AFTER



《図書館の機能を他棟等に移設》



2



3 コミュニケーション
・ラウンジ

2 スタディエリア

4



4 コラボレーション
・エリア

1 ワークショップ
・ルーム A/B

1

ワークショップ・ルーム B▶
ワークショップ・ルーム A▼



《 3号館南玄関から北側駐車場に向かう経路に防犯灯設置 》



《 4号館南出入口の外側へのスロープ設置工事 》



《モデル整備の目的》

学科再編により創設した工学基礎科目（１年次必修：300人対象）の授業は、複数の講義室をつなげて実施しているが、その都度簡易カメラと簡易マイクを事務局がセットして対応してきたことから、遠隔授業（対面併用を含む。）を可能とする配信用システムを２教室にモデル整備した。



《今後の検証》

モデル整備したシステムを令和５年度に教務委員会において効果検証し、今後のさらなる整備の必要性を検討する。



課題のある事業

年度計画No.3 学科再編による数学・理科科目の変更点の効果検証 評価：B

年度計画No.5 学科再編による英語科目の変更点の効果検証 評価：B

数値目標 (3)市内・県内企業との共同研究実施件数

数値目標 (4)外部資金の金額（年額）



年度計画No.3

学科再編による数学・理科科目の変更点の効果検証 評価：B

年度計画No.5

学科再編による英語科目の変更点の効果検証 評価：B

【数学・理科科目の主な変更内容】

数学：1年次必修科目「微分積分学Ⅰ・Ⅱ」
「線形代数Ⅰ」の少人数化

理科：「物理学Ⅰ」「化学Ⅰ」「生物学Ⅰ」の
うち2科目を必修とする（選択必修制）ほか、
少人数教育のため、同一科目を複数開講する

【数学・理科科目の効果検証】

数学 【クラス指定】	再編前（学科）	再編後（学群）
数学 (1年次必修)	約100人×3クラス（昼間） 約50人×1クラス（夜間） 計約350人※再履修者含む	約60人×6クラス（昼間） 計約360人※再履修者含む
理科【クラス未指定】	再編後（学群）	
各科目の履修者数内訳 (1年次選択必修)	物理学Ⅰ(279人),化学Ⅰ(235人),生物学Ⅰ(122人) ※選択必修科目のため履修者の動向は毎年不確定	
物理学Ⅱの時間割別 履修者数 (1年次選択必修)	水曜2限(112人),木曜2限(3人),木曜3限(138人),金曜5限(13人) ※別時限に4つ開講したが、他科目の時間割等の影響もあり特定の時限に偏ってしまった。	

【英語科目の変更内容】

- ①英語 A～D の必修科目化
- ②習熟度別クラス編成の導入
- ③発信型（スピーキングやライティング）科目
（英語 B、D）の少人数制クラスの導入
- ④TOEIC テスト上位者を対象としたアドバンス
ト科目の設定

【英語科目の効果検証】

【クラス指定】

英語科目の改編は、クラスサイズの均衡化と単位取得率の向上に一定の効果があったと考えられる。

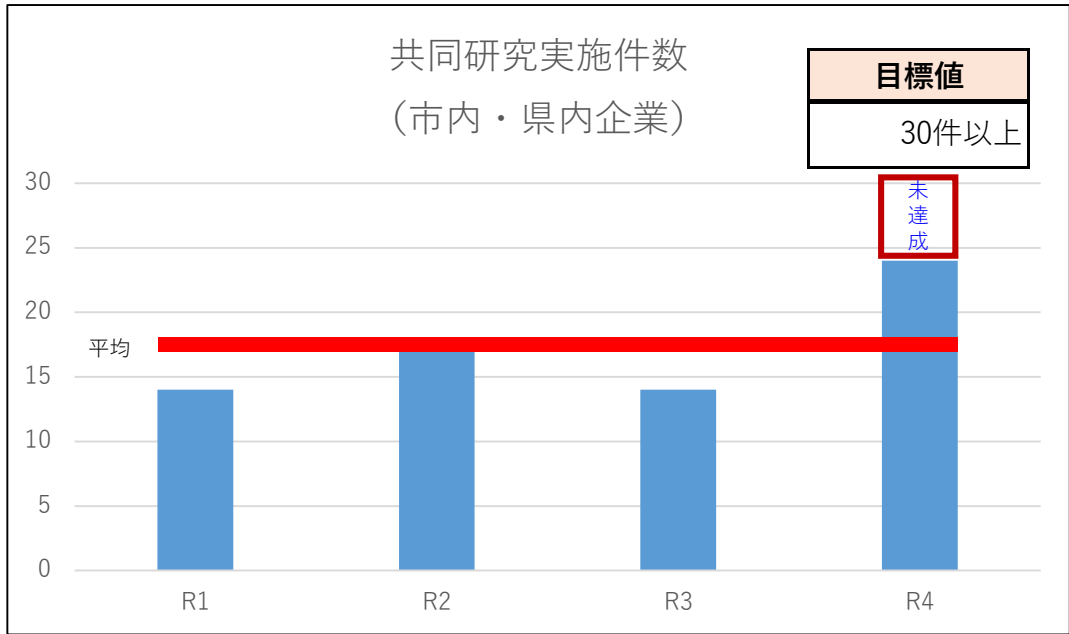
- 英語発信型科目(B)の少人数クラス制（36人⇒30人）
- 英語科目（A・B）の単位取得率の向上（89%⇒94%）

令和4年度までの数値目標の状況

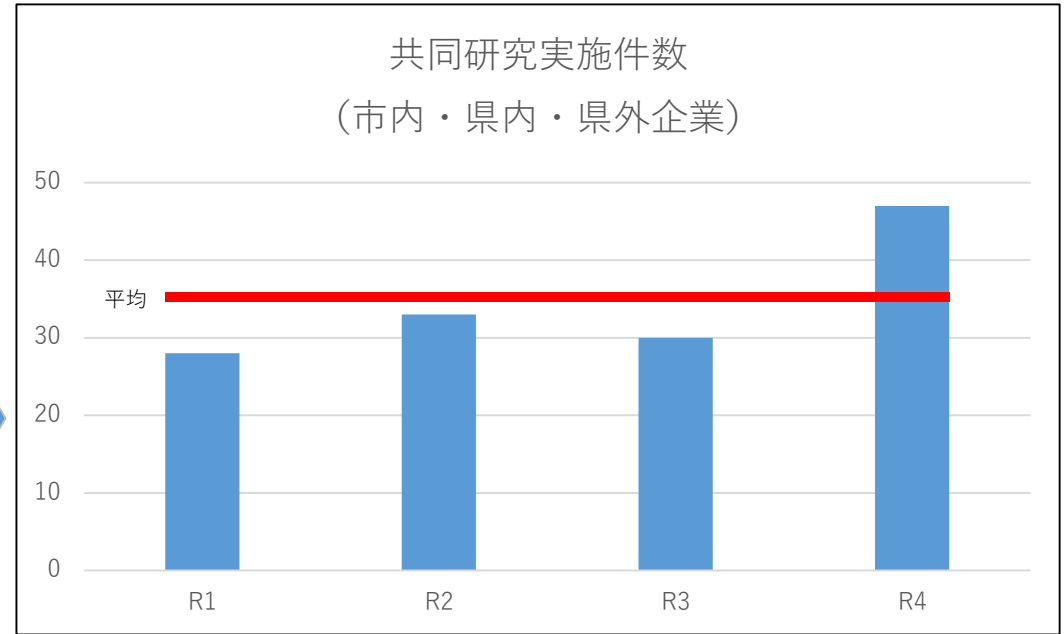
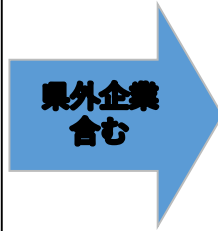
項目	中期計画No	目標値	R01年度	R02年度	R03年度	R04年度
(1)学術団体論文誌等への論文の掲載数（累計）	1-(2)	420編以上	79編	131編	210編	295編
(2)地域貢献に関する事業への学生の参加数	1-(3)	200人以上	254人	35人	30人	38人
(3)市内・県内企業との共同研究実施件数		30件以上	14件	17件	14件	24件
(4)外部資金の金額（年額）	3	100,000千円以上	87,646千円	83,863千円	78,456千円	95,840千円
(5)認証評価（計画期間中）	4	認定	未受審	未受審	未受審	認定

- (1)学術団体論文誌等への論文の掲載数（累計）は、6年の期間中の4年目で目標値の70%を達成
- (2)地域貢献に関する事業への学生の参加数は、コロナの影響を受け、令和2年度からの3年間は、目標を未達成
- (3)市内・県内企業との共同研究実施件数は、年々増加しているものの、目標を未達成
- (4)外部資金の金額（年額）は、令和4年度に最も多い金額を獲得しているものの、目標を未達成
- (5)認証評価（計画期間中）は、令和5年3月15日付けで「大学評価基準を満たしている」と認定され、目標を達成

数値目標 (3)市内・県内企業との共同研究実施件数



	第2期中期計画期間			
	R1	R2	R3	R4
共同研究実施件数 (市内・県内企業)	14	17	14	24
平均	17			



	第2期中期計画期間			
	R1	R2	R3	R4
共同研究実施件数 (市内・県内・県外企業)	28	33	30	47
平均	35			

目標値には達していないものの、**令和4年度は、第2期中期計画期間で最も多い24件**となった。

県外企業を含めるといずれの年度も件数は約2倍になり、平均件数は目標値を達成する水準となる。

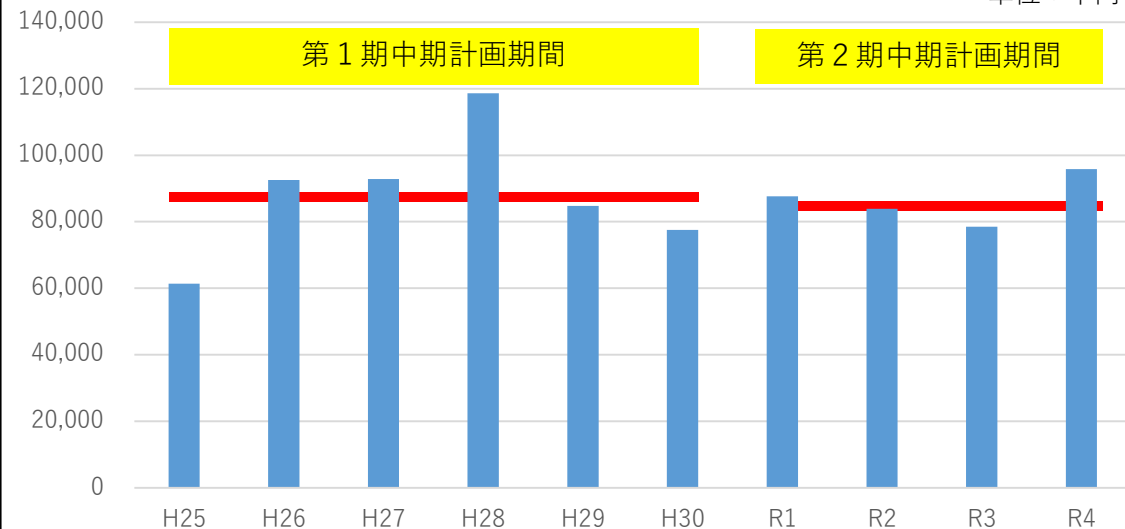
数値目標 (4)外部資金の金額 (年額)

外部資金の金額
(年額)

単位：千円

第1期中期計画期間

第2期中期計画期間

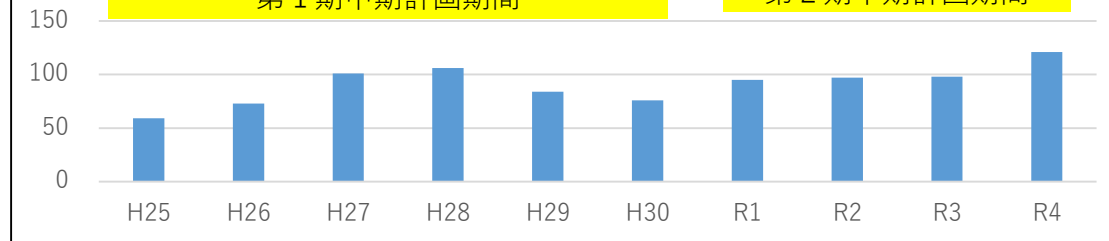


件数分析

外部資金の件数

第1期中期計画期間

第2期中期計画期間



第1期中期計画期間

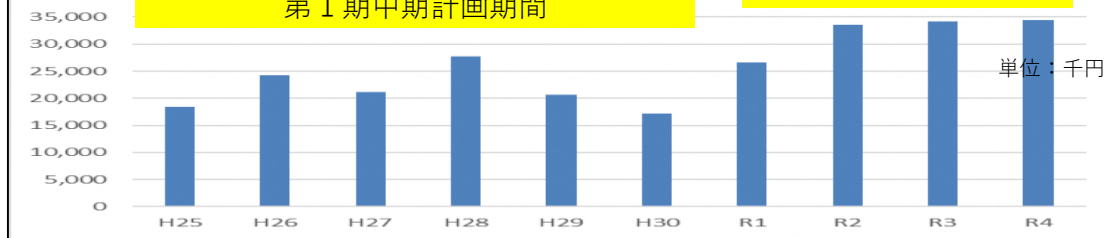
第2期中期計画期間

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
外部資金の件数	59	73	101	106	84	76	95	97	98	121
平均	83						103			

科学研究費補助金

第1期中期計画期間

第2期中期計画期間



第1期中期計画期間

第2期中期計画期間

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
科学研究費補助金	18,476	24,286	21,090	27,780	20,632	17,150	26,556	33,550	34,168	34,421
平均	21,569						32,174			

科研費分析

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
外部資金の金額 (年額)	61,390	92,570	92,862	118,639	84,761	77,570	87,646	83,863	78,456	95,840
平均	87,965						86,451			
目標値	6年間平均78,000千円以上						年額100,000千円以上			

目標値には達していないものの、**令和4年度は、第2期中期計画期間で最も多い外部資金を獲得した。**

令和4年度の外部資金の件数及び科学研究費補助金は、第1期・第2期中期計画期間を通して最も多い件数、金額を獲得した。



中期目標の期間（R1～R 6）の終了時に見込まれる業務の実績

第2期中期目標期間（R1～R6年度）の4年間の総括評価結果

第2期中期目標期間（R1～R6年度）における4年間（R1～R4年度）の総括評価結果は、年度計画を上回って実施している（A評価）が4.9%、年度計画を計画どおりに実施している（B評価）が92.1%であった。

👉 全体の97%がA評価又はB評価となっており、4年間の年度計画を順調に推進していると認められる。

残り2年間（R5・R6）の年度計画も同様に実施可能と思われることから、第2期中期計画は、おおむね計画どおりに達成できる見込みである。

No	区分	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		4年間の総括結果	
A評価（年度計画を上回って実施している）		8項目	9.5%	3項目	3.4%	4項目	4.8%	1項目	1.3%	16項目	4.9%
B評価（年度計画を計画どおりに実施している）		72項目	85.7%	80項目	92.0%	77項目	92.8%	75項目	98.7%	304項目	92.1%
C評価（年度計画をやや遅れて実施している）		4項目	4.8%	4項目	4.6%	2項目	2.4%	0項目	0.0%	10項目	3.0%
D評価（年度計画を実施していない）		0項目	0.0%	0項目	0.0%	0項目	0.0%	0項目	0.0%	0項目	0.0%

A、B評価：97%

≪ 4年間のC評価（年度計画をやや遅れて実施している）の内容 ≫

【令和元年度】

①学部教育と大学院教育の連携：学科再編に伴う新学科向けのカリキュラムを検討することとなり、学科再編と並行して検討することとなった。

⇒ 先送り（令和3年度実施済）

②人員計画の策定：学科再編を反映した人員計画を策定する予定であったが、人員計画の策定には至らなかった。

⇒ 先送り（令和2年度実施済）

③就職活動の支援：学内合同企業説明会の開催を予定していたが、コロナ感染拡大防止のため、中止とした。⇒ コロナによる中止

【令和2年度】

①学部から博士前期課程の教育的連携：学部4年次における大学院科目の早期履修制度について、令和3年度後期からの実施に向け検討を進めた。⇒ 先送り（令和3年度実施済）

②地域貢献、国際交流の実施：地元地区との連携による「おとなの科学教室」の開催、海外の大学への教員・学生の派遣・受入れ、海外語学研修に参加する学生に対し、渡航費補助等の経済的支援を行う予定であったが、コロナ感染拡大防止のため、中止とした。⇒ コロナによる中止

【令和3年度】

①地域貢献、国際交流の実施：地元地区との連携による「おとなの科学教室」の開催、海外語学研修に参加する学生に対し、渡航費補助等の経済的支援を行う予定であったが、コロナ感染拡大防止のため、中止とした。⇒ コロナによる中止

●先送りしたものは、全て令和3年度までに実施済
●コロナによる中止のものは、令和4年度から徐々にコロナ禍以前の状況に戻りつつある。